

「お母さんから」との事であつた。お母さんは西洋人なので、幼い時からちやんとさういふ事を教へ込んで居られるのでした。

西洋人は小さい子供でも美術や音楽おんがくの話は一通出来るやうに教育せられて居ります。日本人も今後はどうか此足りない常識を補充する事に盡力したいもので御座います。

勿論玩具のみによつて之を補はうと云ふのは無理な注文でありますが、或は簡單なる模型を作つて機械の構造を示すとか、或は何等かの考案のもとに公德を教へるとか、之をいぢつて居る間に自然に必要な智識を會得するといふやうな玩具を得たいもので御座います。同時にほしいのは運動の時に用ゐる玩具であります。玩具の懸賞など募つて何十萬といふ數は集つても自然の教育知能の啓

發などに注意したものが一つもない、昔のものに少し手を入れたとか、お得意の外國まねといふやうなものばかりで一向つまらないのです。

西洋に出来るのは随分おもしろいのがあつた、一つの玩具にいろ／＼の役に立つものがあります。たとへば射的をやる玩具の如き各種の動物が並んで居て子供にその智識を興へる、射的する間に運動も出来る、またお互に競争してゲームにもなるといふやうに各方面から考へてあります。

どうか我國でも今少し頭腦をつかつて子供の身の發育を土臺とした、そして陳腐な人まねでない獨創的な玩具の産出せられん事を切望に堪へない次第で御座います。(講演筆記文責在記者)

子供の戦争

子供の遊びにも季節があります。其中で軍ごつこは奇妙に、陸軍の大演習のある期間に行はれません。陸軍の大演習は必ず秋季に舉行せられる。これは氣候の關係もあり、作物の關係もあり、したがつて後備兵召集にも關係しませうが、秋は身體が壯健に、元氣が盛になるといふ事も多少關係して居るのでありませう。

子供の遊びを見て居ると、春は花見とか汐干狩とか、または摘み草とか云ふやうに平和にやさしい事をやつて居る、夏になると暑いから、汗のだら／＼流れる活動的の事はしない、たまにやれば水遊び位のものである。秋に入つておひ／＼涼しげかたつて來ると、子供が期せずして活動的の遊びを好むやうになつて來る。軍ごつこは此自然にあふれて出る子供の活動であります。

そこで、此の軍ごつこを、保護者がどう取扱ふかといふ事が問題になつて來る。此遊戯がもし子供の爲めに有害無益であるならば、もしくは無價

値のものならば、無論させなくてもよいわけでありませう。けれども、これは見かたによれば決して有害無益でなし、また無價値のものではないやうです。寧ろ甚だ有益なる遊戯であるやうに思はれます。軍ごつこが有益なる遊戯であるといふ事になると、どうしても之を奨励するといふ位の所まで進めなければならぬ事になります。少くとも之をとめるといふ事は出來ないわけになつて來ます。

軍ごつこは少くとも共同的の遊びである、互に味方を作つて敵にむかはなければならぬ。それで味方となつた以上は共同一致して働かなければなりません。お前が腕を出せばおれは脛を出すといふ風に、とかく個人性を發揮し過ぎて衝突しやすい時代にある兒童は、軍ごつこによつて、自然に自分の我がまゝを制して共同の精神を養ふ事が出來るのです。將來社會に立つて、よくはたらく事の出來る社會的人になる基礎を作る事が出來

るのであります。

軍ごつこは普通の幼稚園でやる身ぶり手ぶりの個人的遊戯とは一寸趣を異にして、一見少こし亂暴すぎるやうな感があるかもしれないが、決してさういふ憂のあるものではない、我がまゝや、亂暴では共同的遊戯は出来ません。其上これによつて大に勇氣を養ふのであります、即ち尙武の氣象を養成するのであります。

極端な社會主義から云へばしらないが、まづ今日の文明の程度では、戦争は國家といふものが生存してゆく上に於て免かれがたいことであらうと思はれます。戦争をするとどうしても強いものが勝つて弱いものが負けるにきまつて居ります。そこで國民が強くなつては、國家の存在が危なくつてくるのであります。

我が國の如く幾千年來立派な歴史をもつて居る軍國に於ては今更懦弱に陥るやうな事のないやうに、將來益此尙武の氣象を發展させたいものと思

ひます。

現今では、世界中が生存競争をして居るのでありますから、うか／＼して居れが弱肉強食でどんな馬鹿を見るか知れたものぢやありません。それで自衛の爲めに尙武教育は必要になつて來ます。これは國家としての問題ですが、個人としてなせ此尙武教育が必要であるかと云へば、尙武といふ事を一口に云ふと目的に向つて勇往邁進するといふ事です、所謂堅忍不拔の精神を養ふ事なのです。それ故に此精神は如何なる人も持つて居なければならぬものでせう。

尙武の氣象があまり個人的にはたらくと、或は野蠻になりはせぬかといふやうな懸念を抱く人があるやうですが、その心配は御無用です、尙武の氣象といふのは決して野蠻なものではありません、人をはねとばして自分の利益をつかむといふやうなのは尙武氣象とは全然相反したものであります。今日我國の風俗が遊惰に流れるとか、華美に

陥るとか云ふのは此尙武の精神を忘れかけて居る結果ではないかと思はれます。畏けれど戊申詔勅の御主意もたしかに此邊にあつたと存せられます。

兵隊の訓練これは實に猛烈なもので血の税を拂ふ位の覺悟でなくては受けられるものでありません、私も暫らく此訓練を受けた事があるが、その經驗から考へて見てもあの時位の覺悟をいつも持つて居たならば、人間は一生の中何事か一事業をなし能はぬものはなからうと思ひます。どうか家庭に於ても、學校に於ても此尙武の精神即ち堅忍不拔の覺悟を養成する事につとめたいものと思つて居ります。

去る八月十五日、暴風雨の爲めに東海道線は沼津から不通になりました、私も避暑地からの歸途に居りましたが、大に感心させられた事がありました。かの江原素六先生であります。七十幾歳の白髮白髯の老體で、お伽噺で云へば白衣をまと

うた神仙とでも云ふやうなお爺さんが、沼津の停車場からたつた一人てく／＼歩き出された。「先生どこへおいでになります」と尋ねると、「東京へ歸るのだと云はれる、」どうしてお歸りになりますか？」と聞くと「なにあるくさ」と平然として居られる。見れば白いきやらこの洋服に夏帽をかぶつてステツキ一本ついて居られるだけでした。

若い者や青書生たちが、一大事出来といふ顔つきであちらでもこちらでもどうしやういやかうしやうと額をあつめて小田原評議をやつて居る中で「なにあるくさ」と飄然出てゆかれた翁を見てひどく感慨にうたれました。先生などはわかい時から日本固有の尙武教育に心身を鍛へて居れるから早くすでに困難に堪へ得るの覺悟をもつて居られる。それに比べて、とかく物質的にばかりかたむきやすい今の教育は如何のものかと思はれます。

軍ごつこは從來あまり重く見られて居ないやうですが考へて見ると、前申す通り随分重大なる意

味をもつて居る遊びであるからよほど之を獎勵したいものと思つて居ります。

女は戦争をしないから尙武教育の必要がないといふやうな事も云へるでせうが、堅忍不拔なる精神、所謂鞏固なる意志は男も女も貴きも賤しきも如何なる人も必ずもたなければならぬものであります。古來孝子節婦の多くが下級の人にあるやうです。之れは一方艱難によつて心身を練磨した結果であらうと思はれます。ともかく意志の訓練といふ事は最大切な事であるから、幼い時から教育者或は保護者なるものがよく注意しなければならぬ事であります。どうも今の上流の婦人たちは意

志が強いとは思はれないやうです。所謂上流の奥さんたちの中に、一朝逆境に立つた場合、よく困難に堪へて平然として樂觀し得る人が幾人ありませうか。幼時から意志の鍛練を経て居ないと、事に出逢つた時立派な覺悟をもつといふ事はむづかしい事であります。

女兒も男兒も同様に必ず軍ごつこをさせなければならぬと云ふのではありませんが、常に尙武的教育即ち意志の訓練といふ事に重きをおいて、遊戯其他萬事を取扱つてやるがよいと思ひます。敢て幼児教育に従事さるゝ、保姆の方々に伺ひます。(談話)

湖畔詩人に歌はれたる子供

文學士 福 島 政 雄

「愛らしき幼な子達よ。いまし等か母君の旅立ち

まし、よりはや一と月、明日こそは母君のかへり
來ますべき樂しき日なれ。」